

2025年度（令和7年度）
第1回福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

1 日時等

日 時 : 2025年（令和7年）7月11日（金）
10:00～12:00
場 所 : まなびの館ローズコム4階 中会議室

2 出席委員

長谷川良二 会長、津田将行 副会長、安倍義弘 委員、植村二三子 委員、大園哲也 委員、
川上富美子 委員、客本牧子 委員、後藤学 委員、小林洋造 委員、芝田全弘 委員、
妹尾和威 委員、園尾俊昭 委員、藤井伸哉 委員、前田美都子 委員

3 欠席委員

沖和真 委員、田和草太郎 委員、橋本敬治 委員、宮地毅 委員

4 議事

- （1）会長、副会長の選任について
- （2）福山市一般廃棄物処理基本計画の策定について
 - ア 一般廃棄物処理基本計画策定の趣旨等について
 - イ ごみ処理、生活排水処理の現状について
 - ウ 目標値の達成状況について
- （3）その他

5 議事要旨

- 事務局より、委員定数の半数以上が出席していることを確認した。
- 委員の互選により、会長には長谷川委員、副会長には津田委員が選任された。
- 会議は公開で行った。
- 事務局より、配布資料に基づき、「一般廃棄物処理基本計画策定の趣旨等」や「ごみ処理、生活排水処理の現状」及び「目標値の達成状況」について説明を行った後、質疑応答を行った。

(意見の概要)

ごみ処理、生活排水処理の現状について

目標値の達成状況について

○福山ローズエネルギーセンターから排出される焼却灰及び飛灰のリサイクルは、どこかに委託しているのか。

⇒ツネイシカムテックス（株）へ委託している。

○最終処分費の委託費が下がっているが、費目の内訳及び1 t当たりの委託費用は示せるか。

⇒資料を確認し、改めて説明をする。

○し尿収集量が約24,000kL、浄化槽汚泥収集量が約72,000kLと浄化槽汚泥の割合が高いが、処理施設から処理が困難といった意見はないか。

⇒し尿及び浄化槽汚泥は4施設で処理しているが、排水基準値を超過したことはなく、適正に処理できている。

○汚水衛生処理率とは何か。

⇒福山市人口のうち「下水道水洗化（接続）人口＋集落排水水洗化（接続）人口＋浄化槽人口」の割合であり、みなし浄化槽人口、くみ取り人口、自家処理人口を除く人口の割合である。

○家庭系ごみ排出量が減少している要因は、人口の減少か。

⇒人口の減少に加え、消費活動の低迷もひとつの要因だと考えている。

○事業系ごみもあるが、福山市としてごみ排出量を減少したほうが良いのか。

⇒経済と環境のバランスといった難しいテーマではあるが、ごみ処理経費の削減も重要であるため、事業系も含め、ごみ排出量は減少したほうが良い。

○紙類のステーション収集が始まって数年経つが、市民の意識の変化は把握しているか。

⇒行政が行う紙類のステーション収集量は2023年度（令和5年度）が3,079t、2024年度（令和6年度）が2,600tとなっている。近年は、各団体による資源回収量及びステーション収集量が減少傾向にあり、要因としてスーパーマーケットやコンビニエンスストア等で回収を行うところが増えており、市民のライフスタイルの変化から、より出しやすい場所への利用が増えていることが考えられる。

⇒分別の徹底や啓発等は、今後も続けていきたい。

○汚水衛生処理率に関する課題について、浄化槽であれば問題ないが、みなし浄化槽は浄化槽等への転換が必要と理解して良いか。

⇒みなし浄化槽は、トイレのみを処理し台所などの水はそのまま水路に出るため、生活環境に影響がある。このため、浄化槽（合併浄化槽）への転換が必要である。

○現行計画のリサイクル率の目標達成見込みについて、R D Fを除いた場合の値 1 9 %で評価して良いのか。

⇒2 0 2 4 年度（令和 6 年度）以降は、R D Fを製造していないため、R D Fを除いた場合の目標値 1 9 %で評価することになる。なお、2 0 2 4 年度（令和 6 年度）のリサイクル率は 1 8 . 8 %であり、0 . 2 ポイントの向上と今後 1 0 年間のさらなる向上のためには、資源の効率的な回収が必要だと考えている。

○福山市の収集ルートに乗らず、直接事業者には流れている量はどの程度か把握しているのか。

⇒一部の事業者からは量を教えてもらっているが、機密情報の観点から全ての事業者についての把握は困難な状況である。

○現行計画の検証・評価に向け、これまでの 1 0 年間の状況を整理した資料はあるか。

⇒次回の審議会での説明を予定している。

○リサイクルだけでなく、リデュース及びリユースについてはどのように考えているか。また、これまでは市民・事業者に対してどのような形で働きかけてきて、今後はどのような形で働きかける予定か。

⇒3 Rの優先順位はリデュース、リユース、リサイクルと認識している。また、これまでの市民・事業者への働きかけは、リサイクルプラザでの展示や施設見学での啓発、学校や地域での講座等を行っている。今後の具体的な取組については、審議会の中でご意見を頂きたい。

○事業者にはどのような啓発を行っているのか。

⇒パンフレットの配布や事業系一般廃棄物減量計画書の作成指示、当該計画書に基づく立入検査・指導を行っている。

○し尿処理施設の整備計画について、下水処理施設との共同処理は考えているか。

⇒広島県を通じて議論はしているが、具体的な方向性は決まっていない。

○福山ローズエネルギーセンター、リサイクル工場、箕島最終処分場及び民間処理施設の見学会を計画していただきたい。

⇒計画する。なお、福山ローズエネルギーセンターについては、月曜日から金曜日及び日曜日に自由見学が可能となっている。

○家庭系ごみの定義が一般廃棄物処理実態調査結果（環境省）と異なるため、確認したほうが良いのではないか。

⇒区分名称は自治体ごとに異なっており、一般廃棄物処理実態調査結果における定義は、これらを統一・定義したのになっていると認識している。

以 上